

LONGRUN

2024 新歓号



東京大学
地文研究会 **地理部**



LONGRUN 2024新歓号 目次

まえがき	1	地図作業について	9
部長あいさつ	2	語る会について	11
巡検について	4	霞ヶ関巡検2023	13
合宿について	6	リアルGeoGuessr2023	35

まえがき

LONGRUN(ロングラン)は、東京大学^{ちもん}地文研究会地理部が発行する部誌の名称です。この新歓号は、新入生をはじめ、われわれ地理部の活動に興味を持っていただいた方に、日々の活動の内容や様子を、より詳細にお伝えすることを目的として作成しました。本誌の前半には、地理部の多彩な活動内容についての説明を、後半には、昨年度の活動の中から「霞ヶ関巡検2023」と「リアルGeoGuessr2023」の2本の活動報告記事を掲載しています。本誌を読んでもくださった皆さんに、地理部の活動の楽しさや面白さが少しでも伝われば幸いですし、いち編集者として嬉しく思います。皆さんの多くの新歓企画への参加、そして入部を、部員一同心よりお待ちしております！

地理部73期編集



部長あいさつ

地理部73期部長

はじめに

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。地理部73期部長です。よろしくお願ひします。まずは、地理部に興味を持って参加していただいたこと、そしてこのLONGRUNを閲覧していただいたことに感謝申し上げます。ここでは、地理部の基本的な情報について、簡単に紹介したいと思います。さらに詳しい内容については、これに続く記事をお読みください。

地理部の概要

地理部とは、端的に言うと、地理が好きな人々が集まるサークルです。地形、交通、河川、都市計画、旧街道、宿場町といった多様な趣味を持つ部員が、地理という共通項の元に1つの場に集まり、互いに自分が興味を持つ分野の知識を深め合うことができる場、そして自分が今まで詳しくなかった分野や興味の無かった分野に触れることができるような場を形成しています。この多様性が地理部の活動を彩り、味わい深いものになっています。

そんな「地理」に関する活動は、以下の4つに分けられます。

- ・巡検（主に週末、長期休暇）
- ・合宿（長期休暇）



- ・立体日本地図制作（主に平日夕方～夜）
- ・地理部で語る会（主に平日夜）

これらの活動は、すべて自由参加であり、部費の徴収もないため、自分の興味や予定に合わせて活動することができます。ぜひ参加してみてください。

おわりに

以上のように、地理部の特徴はその多様性と自由度の高さにあります。2024年度もバラエティに富んだ新しい企画を実施し、部員の皆様が楽しく活動することができる環境を作り上げていきたいと考えています。新歓期には通常より多くの企画を実施する予定ですので、ご興味があるようでしたら試しに一度参加してみてくださいはいかがでしょうか。部員一同皆様とお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。



「東急世田谷線巡検」より 目青不動尊



巡検について

地理部73期巡検管理長

巡検とは、東京近郊で主に週末に行われる、日帰りの街歩きのことです。地理学や地質学で「巡検」というと、学術的なフィールドワークのことを指しますが、地理部の「巡検」は堅苦しいものではありません。企画者となった部員が、テーマやコースを自由に考え、下見を行い、巡検当日には解説を加えながら先導します。歩行距離は10km程度、所要時間は4～5時間が目安です。部員の参加は自由であり、途中参加・途中離脱も自由であるため、空いた時間に気軽に参加することができます。地理部の主力といえる活動であり、新歓巡検も多く開催されます。

巡検の魅力といえば、なんといっても「楽しい」「おもしろい」ことでしょう。企画者は、「この地域のおもしろさを伝えたい!」という気持ちから、綿密に事前調査を行い、地形や地質、都市計画、歴史など、さまざまなテーマに沿って巡検を企画します。地理部員は多様性が高く、それぞれ趣味や出自が異なるため、企画者によって着眼点も違ってきます。都心などでは違う巡検で同じ街を歩くこともありますが、着眼点が違えばその街も違って見えます。見慣れた街でも新たな視点から見直す機会となります。様々な企画者の解説を聞くことは、たとえ地理について詳しくなくても十分に興味深いはずです。

巡検に参加し、たくさんの街の特徴や成り立ちなどを知ることで、知的好奇心が刺激され、より多くの街について詳しく知りたいと思うようになるでしょう。巡検に参



加することが多くなると、普段街を歩いているだけでも「この道は暗渠（地下に作られ、上部が覆われた水路）かな？」「今は工事中だけど、再開発が終わったらどうなるんだろう？」など、様々な興味や疑問が湧いてくるようになります。

また、巡検のもう一つの魅力は、様々な部員と知り合えることです。巡検に参加するたびに参加者の顔ぶれが違うため、新たに知り合いが増えたり、巡検で何度も顔を合わせることで仲良くなっていったりと、年齢や在籍大学の垣根を越えて、地理部内での交友関係を広げることができます。

みなさんもぜひ積極的に巡検に参加しませんか？ そしてゆくゆくは自分の好きな街で巡検を企画してみたいはいかがでしょうか。



「江ノ島巡検2023」より 江ノ島のトンボロ



合宿について

地理部73期総務

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

ここでは地理部の合宿というものについて、行程の立案から宿の手配まで合宿に係る事項全般を統括する総務より説明したいと思います。

そもそも当部の合宿とはどのようなものなのかというと、日帰りが困難な遠方へと赴き、各地の名所を巡ることはもちろん、普段の巡検のような街歩きなどを行うものです。多くの合宿では「分隊」と呼ばれる行動グループが毎日2～3個作られており、これらは全て異なる場所を訪れるようになっています。そのため部員は自身が行きたい場所を訪れる分隊を選んで参加することで、自分が興味のある場所へ行くことができます。

我々の合宿の特徴として最も代表的と言えるのが「自由度」です。これまでの人生で皆さんが参加したことがある合宿は、ほとんどの場合で集合から解散まで決められた流れに沿って行動することが求められていたかと思います。しかし地理部の合宿は合宿中の行動はもちろん、合宿に参加する場所や合宿から離脱する場所さえも自由に決めることができます。そのため、先述した「分隊」に参加せずに自分の好きなよう行動する部員もいますし、地理部とは別に組んだ旅行との兼ね合いで途中参加や途中離脱をする部員もいます。そして時には1日だけ参加する部員さえいるほど、当部での合宿は部員の自由な行動が認められています。もちろん総務が組んだ旅程通りに



過ごす部員が最も多いですが、どのような参加スタイルにせよ楽しく充実した時を過ごせることは間違いのないでしょう。

また、合宿のもう1つの特徴として、合宿前後で前哨戦・延長戦と呼ばれる個人旅行をする部員が多いことが挙げられます。合宿の前に数日をかけて各所を観光してから集合場所に現れる部員、「今から1週間ぐらいかけて〇〇まで行くつもり！」と宣言して解散場所から去っていく部員など、多くの部員が地理部の合宿を足掛かりとして全国各地を旅しています。何もきっかけがなければ訪れることはなかったような場所へ足を運ぶ機会にもなっていること、これは我々の合宿が持つ大きな特徴だと言えるのではないのでしょうか。

ここまで述べてきたように、地理部の合宿における行動スタイルは皆さんの思うままにカスタマイズすることができます。みんなでわいわい各地を巡る修学旅行さながらの楽しみ方もあれば、時には修学旅行と気ままな個人旅行の合わせ技のような楽しみ方も可能であるなど、多種多様な楽しみ方ができるのが当部の合宿の良い点ではないかと思います。

現在の地理部では、新歓(主として6月)、夏休み、春休みの年3回、合宿が実施されています。行き先は常に異なっており、全てに参加しても決して飽きの来ないものとなっていますので、予定が合う方はぜひ参加してもらえたらと思っております。そして、この記事を読んで合宿についてもっと知りたくなった方は部員に質問してみてください。きっとわくわくするような合宿の思い出を沢山聞くことができますよ！



さて、そろそろ私は新歓合宿の準備に戻らないといけないので、今回はこの辺りで終わりにさせていただきます。総務一同、新入生の皆さまと合宿の場でお会いできることを楽しみにしております！



「夏合宿2023」より
新潟・笹川流れ



「春合宿2024」より
金刀比羅宮参道からの眺望



地図作業について

地理部73期地図長

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！ここでは、巡検と並ぶ地理部の主な活動である「地図作業」について説明します。

地理部では、五月祭や駒場祭で「立体日本地図」を展示しています。地形図と発泡スチロールを用いて、等高線で描かれた地形の起伏を立体的に表現した、大型の模型です。

学園祭の人気投票などで毎回大好評の「立体日本地図」ですが、これは先輩方が代々制作してきたものであり、非常に壮大な作品です。しかしその一方で老朽化による欠損や、地図情報の更新の必要が出てきました。そこで現在、地理部では「立体日本地図」の全面新規作成を行っています。完遂まで10年の期間を予定する大事業が始まっています。

作業工程は以下の通りです。

- ・等高線に沿って地図に線を引く
- ・地図を発泡スチロールの台紙に貼り付け、線に沿ってカッターで地図を切る
- ・電熱線カッターで発泡スチロールの台紙を切る
- ・ボンドを使って地図を組み上げる

どれも特別な技能や知識は必要ありません。全く経験のない人でも楽しく作業ができます。



また、地図作業の時間中は常に黙々と手を動かしているわけではなく、度々レクリエーションも行います。途中参加・途中退出も完全に自由です。地図作業は部員同士が落ち着いて話をする事ができる絶好の機会です。参加することで部員同士で友達を作れることもできるでしょう。ぜひお気軽にご参加ください！





語る会について

地理部73期企画室長

0. はじめに

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！！ さて、地理部の活動は大きく分けて4つあります。巡検、合宿、地図作業、語る会、です。ここでは企画室長から、語る会について説明したいと思います。

1. 語る会の説明

語る会はその名の通り、ただ地理部員がオンライン(zoom上)で語りたいことを語る、というものです。去年の新歓語る会の題材を見てみましょう。

- ・ 離島の歩き方
- ・ 秘境駅に行こう
- ・ 地理部合宿を楽しもう！
- ・ 「東路の道の果て」から「TOKYO」へ
- ・ 混沌の国インドの歩き方
- ・ 開拓を支えた水路・那須疎水を辿る
- ・ 旅行トラブル日記
- ・ 都市計画ことはじめ



このように、地理的な話題を地理部員が話す、というものになっています。聞く側は何をしても、例えば作業用BGMとして聞いていても構いません！ お気軽にご参加ください！

2. 個人的に

語る会の説明としては以上で終わりです。ここからは、個人的に地理部に入って良かったことをお伝えします。

大きい声では言えませんが、僕はスペイン語選択で、クラスが陽の雰囲気にあふれていたため、このままだと孤独になる、と1Sセメスター中は焦っていました。(誤解のないように補足すると、今は全くそのようなことはなく、クラスのみんなど仲良くなっています。みんなありがとう。) そんな中、必死に入り浸ったのが地理部でした。はじめの方は特定の一人としか喋っておらず、他の人たちと喋ることはなかったのですが、徐々に他の人や先輩とも話すようになりました。今ではさらに部内での交友関係を持つことになり、ああ入り浸って良かったなあ、と思う次第です。みなさんも、最初のうちはメンバーが固定ではないため難しいかもしれませんが、地理部以外のサークルであっても、コンスタントに通うことを強くお勧めします。

地理部のように、活動が高頻度にあり、しかも部費も無料の文化系サークルはなかなかないと思います。みなさんぜひ入部してください。そして一緒にお話ししましょう！！！！



霞ヶ関巡検 2023 実施報告

企画者：71 期総務・70 期庶務

はじめに

「霞ヶ関巡検 2023」は、2年前(2021 年)の夏に実施された「霞ヶ関巡検」に端を発します。70 期庶務の方が企画されたもので、国家政治や行政の諸施設が集積する霞ヶ関一帯の街を回るといった趣旨でありました。そして、この「霞ヶ関巡検」は昨年(2022 年)秋に、「霞ヶ関巡検2022」として、リバイバル開催を果たすこととなります。そこから「霞ヶ関巡検」の恒例巡検化の構想が立ち上がるようになります。そして私はというと、2021 年度に参加した「霞ヶ関巡検」が面白かったこともあり、リバイバル開催にも続けて参加していました。いわば「おかわり」のようなところですね。そうしたところ、前企画者から「『霞ヶ関巡検2023』をやらないか」と声がかかります。そして私がこのスカウトに乗った形で実現したのが、当巡検ということになります。

さて前置きが長くなりましたが、本稿は「霞ヶ関巡検2023」の内容をご紹介しますものになります。3年目の実施となった今回は、解説の内容をブラッシュアップし、また最新のトレンドを適宜取り入れるなど、更なる工夫を施しました。こうして、継承されつつもリニューアルを遂げた「霞ヶ関巡検」を、ぜひ最後までお楽しみください。

巡検概要

「霞ヶ関」というと、政治・行政の場というイメージを持たれる方が多いかもしれません。実際に、主要官庁はここに集中していますし、国会や首相官邸、自民党本部などのある「永田町」にも近く、まさしく日本の中枢に位置するといえます。

そういった権力の営みは、建物や空間配置など、都市計画においても表徴として具現しています。今回は、様々な機関の特徴も解説も盛り込みつつ、少し普通とは違った地理部らしい角度から、「霞ヶ関」の何たるかをご紹介しますと思います。

1. 日程

G 日程：2023/7/2(日)



ロ.行程

集合(17:00) 日比谷公園有楽門(公園前交番)

解散(20:50) 市ヶ谷駅

歩行距離 約9km

※当日は予定より20分ほど遅れて解散しました。

17:05 0.0km 日比谷公園

▽日比谷交差点角の有楽門から公園に入り、噴水の周辺で自己紹介を行います。

▽園内をツアーし、祝田門から公園を出ます。

17:35 1.1km 法務省赤れんが煉

▽霞ヶ関の神髓です。まずは法務省・東京地裁高裁・農水省・経産省の前を通過しましょう。

▽通過しつつ、向かい側にある警察庁・総務省・外務省・財務省の解説もします。

▽中でも財務省は自称「官庁の中の官庁」で、その責任感の強さは庁舎の建築にも顕在。

18:00 2.1km けやき広場(休憩①-10分)

▽18:10に出発し、アメリカ大使館へ向かいます。

▽外堀通りを渡って、首相官邸脇の坂道を上って、さあ日本の中枢へ向かいましょう。警備状況次第では迂回します。

18:55 4.4km 国会議事堂

▽首相官邸・国会議事堂・最高裁判所とめぐります。

▽合間で国会図書館や自民党本部なども観察しましょう。

▽永田町を抜けた後は、麴町中学校や砂防会館など地味なスポットを回ります。

20:05 6.9km ホテルニューオオタニ日本庭園(休憩②-15分)

▽都心にありながら広大な敷地を誇る庭園で、心行くまで日本情緒に浸りましょう。

20:20 7.7km 迎賓館

▽迎賓館も日本の政治・外交を語る上で欠かせない場所の一つです。

20:40 8.7km 防衛省

▽最後に、中央省庁の離れ小島・防衛省に足を運びます。

20:50 9.3km 市ヶ谷駅

▽解散 お疲れ様でした！



図 1 行程図(地理院地図を加工して作成)

ハ.参加者一覧

70期:1名

71期:3名

72期:7名

73期:4名

巡検内容

イ.霞ヶ関の成り立ち

霞ヶ関の形成過程を説明する前に、まず霞ヶ関の位置関係をおさらいしましょう。

霞ヶ関のエリアは、北に内濠・南に外堀、西に山手線・東に国会・永田町が立地するという一帯だとお考え下さい。

中でも、北に皇居があるというのは象徴的です。家康開闢以来、江戸城・皇居は、東京という都市の軸として機能し続けてきました。例えば戦後、1940年代を思い起こしましょう。日比谷公園目の前のDNタワーは、マッカーサーがかつて総司令部を置いた場所。そして皇居前広場では1952年に血のメーデー事件が起こりました。上からも下からも、政治との接点としてこの場所が意識されていたということを表します。



図 2 日比谷公園から丸の内方面を望む。中央がDNタワー。

霞ヶ関の立地を把握した上で、ここからは霞ヶ関という街の成り立ちを順を追って説明しましょう。そこで、まずその隣町である日比谷に目を転じるとともに、時計の針を近世まで巻き戻さなければなりません。

日比谷公園北側には、心字池という名の池とちょっとした石垣があります。お察しの方もいらっしゃるかもしれませんが、ここには江戸城の「日比谷見附」が置かれており、2つの堀を結ぶ「中濠」が引かれていました。実は家康が入府した際、この周辺は「日比谷入江」として海が広がっていたため、それを有効活用したという形になります。現在ある池と石垣はその名残ということです。

同時に内濠と外堀の間には、江戸時代を通じ武家の上屋敷がありました。当然、これは明治維新後、無用の長物と化します。東京駅周辺は政商が買い上げ、「三菱村」となったことが知られています。片や日比谷周辺は陸軍の練兵場となり、空き地が広がっていましたが、そこに目をつけたのが、戦前の大物政治家井上馨でした。

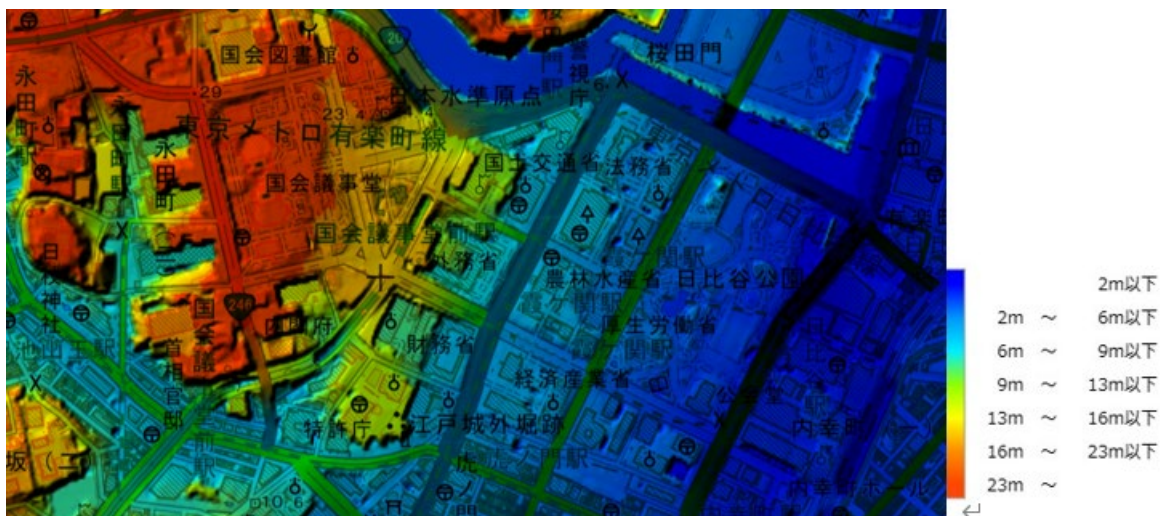


図 3 日比谷周辺の色別標高図(地理院地図を加工して作成)

日比谷公園一帯が周囲に比して標高が低くなっていることがわかる。

井上馨は明治中期、不平等条約の改正を達成すべく、欧化政策を講じました。鹿鳴館外交もその一翼を担うものです。一方、来日する外国人が増える以上は、建物や町並みも欧米風の立派なものに設える必要が出てきます。近代国家を促成栽培するために、彼が考え出した案の一つが官庁集中計画でした。すなわち、洋風の優れた官舎を、綿密な都市計画のもと、中心部に集中させようというものです。

官庁営繕の歴史

1883(明治 16)年	井上馨の献策を受け、鹿鳴館開館
1888(明治 21)年	内閣の臨時建築局にエンデとバックマンを招聘
1890(明治 23)年	内務省土木局が官庁集中計画の見直しに着手
1895(明治 28)年	司法省庁舎(現法務省赤れんが庁舎)が竣工
1903(明治 36)年	日比谷公園開園

上の年表を基にして細かな流れを解説します。まず井上馨は、エンデとバックマンという2名の建築家をドイツから招聘します。バックマンは市区改正計画を提出し、東京全体の再開発を一挙に進めるよう主張しましたが、却下されました。図4をご覧いただければ、彼の構想がどれだけ壮大だったかが分かるでしょう。しかし、都市計画自体としては今なお高く評価されているらしく、法務省前のサンクン広場に当時の図面が描かれています。

もとい、井上馨らは、あくまで①ヨーロッパらしい、②官庁街の設計を依頼していたわけで、バックマン案が却下されるのもある意味当然でした。その意図を汲んだまた別の建築家ホープレヒトは、日比谷にコンパクトな官庁街を作る、という「口の字型計画」を提案しています。ただし彼は案だけ投げて帰国してしまったので、エンデがしぶしぶその計画を実行に移すことになりました。

しかるに、このエンデの計画は失敗に終わりました。それゆえにこの場所は公園になったわけですが、なぜでしょうか。ヒントは最初に示しています。そう、かつて、日比谷入江があり、江戸時代も掘割が敷かれていたわけですから、地盤が軟弱だったのです。司法省の建物を作っていたところ、煉瓦が何十 cm も沈み込み、東側の土地利用は諦められることになりました。これを世に「エンデの大穴」といいます。当時、外国人判事任用問題で井上馨が失脚していたこともあり、エンデは解雇されてしまいました。

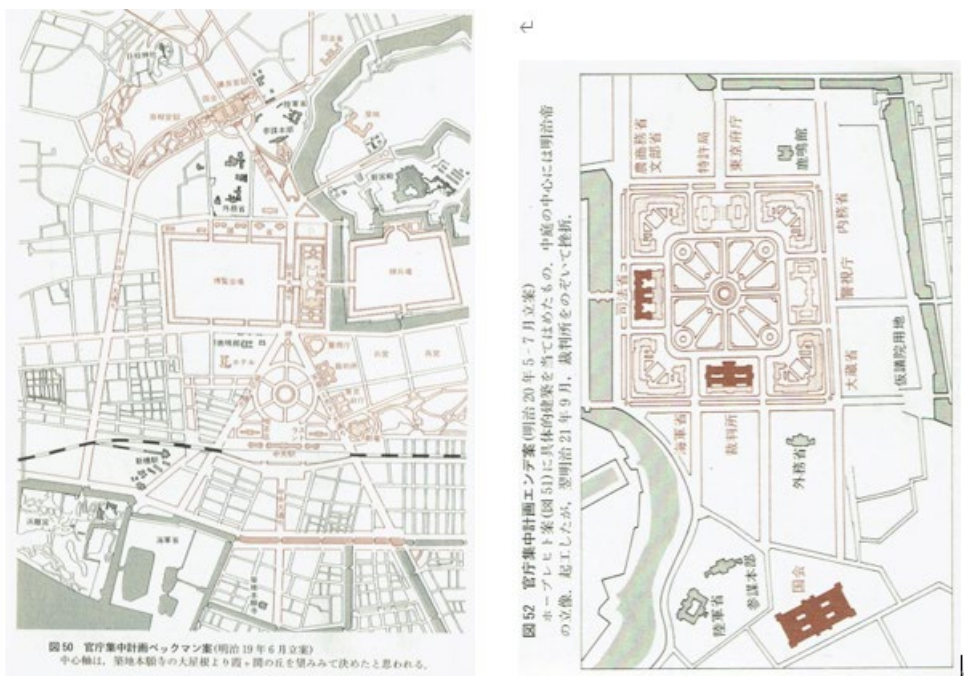


図 4 官庁集中計画バックマン案・エンデ案(宮田(2002)より)

ただし、エンデの帰国後も彼の図面をもとにして建設された施設が例外として存在します。それは、赤レンガの司法省、大審院、海軍省でした。条約改正に向けては、私法機構の整備が最重要事項とされていた影響ですね。

しかしこの後、官庁営繕を取り仕切ったのは、内務省土木局になります。山尾庸三という人物がここに祝田橋をかけ、また先述の「口の字型計画」のど真ん中をぶち抜く凱旋道路を完成させたことで、名実ともにエンデの計画案は瓦解したということになります。一方この後、国道1号線は官庁街の方に迂回することに

なりました。内務省はもともと官庁街の周縁に追いやられるはずだったのですが、桜田門の目前という最も重要な場所に陣取ることになり、官衙計画上の復権を印象付けました。

ご案内の通り、エンデの帰国後、官庁集中計画は一旦頓挫しましたが、当時各官庁は大手町や有楽町などで執務を続けていました。しかし、1923年の関東大震災を受けて状況は一変します。主要官庁が焼失したこともあり、戦災復興のなかで、各所に点在していた機構を改めて「霞ヶ関」に集めようという声があがったのです。

では次節では、霞ヶ関における官庁集中計画が完成するまでの流れを、中央行政の趨勢や各官庁の特徴についても言及しながら、追っていくことにしましょう。

ロ.官庁街を歩く

下の略図から一目瞭然ですが、この「霞ヶ関」にはほぼ全ての省庁が軒を連ねています。この官庁集中計画が完成するまでには長い月日を要しました。

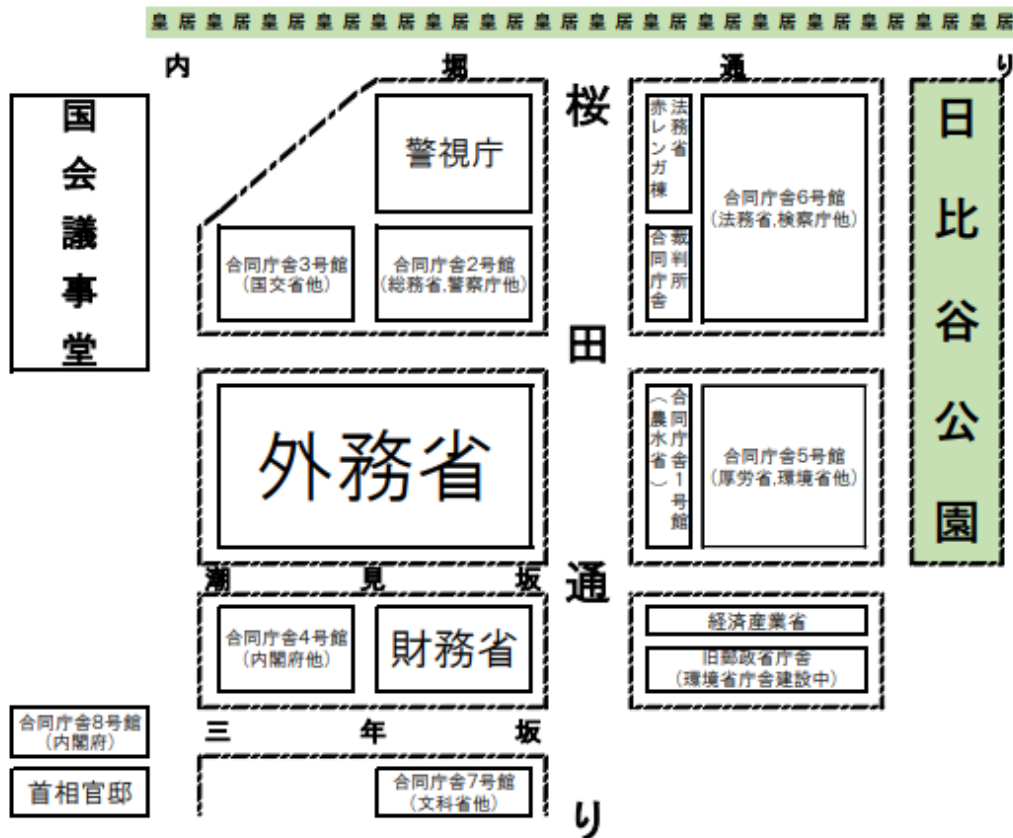


図 5 霞ヶ関周辺略図

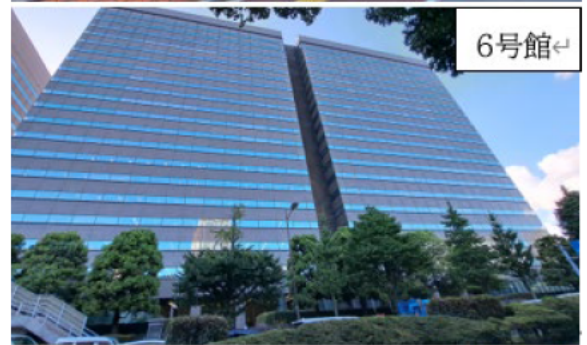
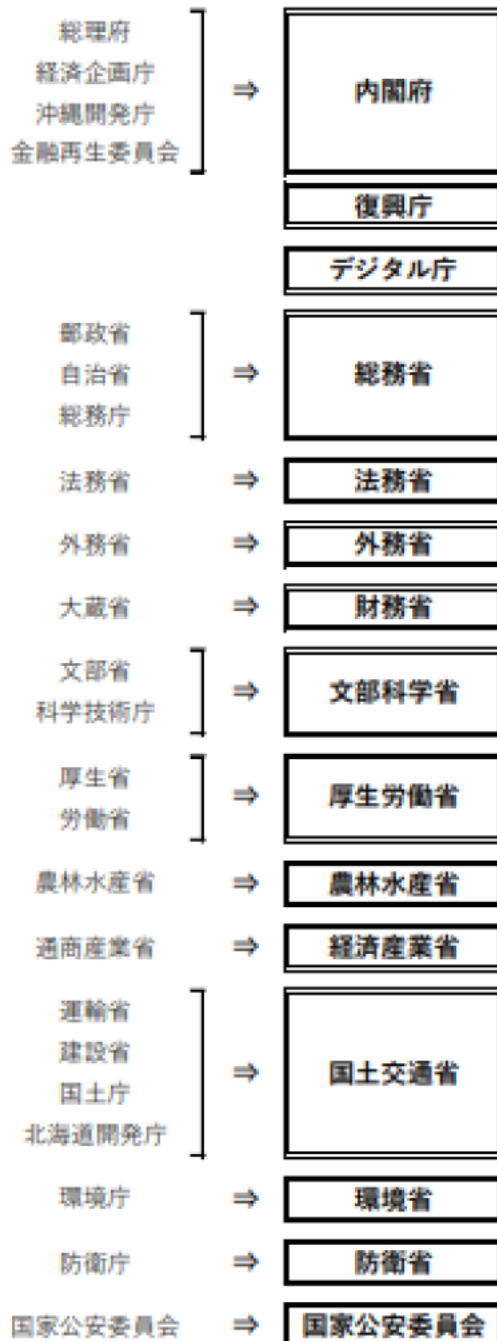


図 6 中央省庁再編の様子



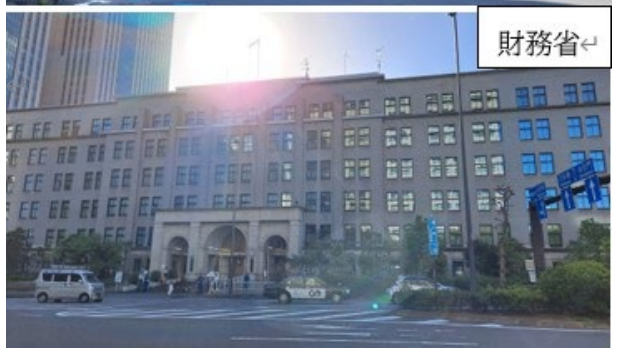
2号館←



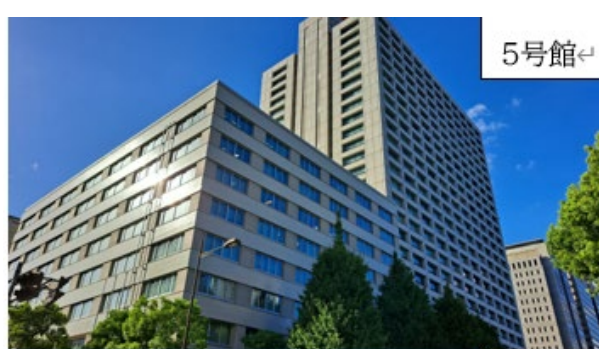
外務省←



3号館←



財務省←



5号館←



経産省←



1号館←



7号館←



図 7 中央省庁の主な庁舎

昭和期になると、建築様式の流行は、司法省などに見られた赤レンガから、スクラッチタイルに取って代わられました。本郷キャンパスの「内田ゴシック」などを想起していただければわかりやすいですが、そういった形態で庁舎が作られることになります。まず整備されたのが警視庁と内務省です。

桜田通りを南下するとき、まず警視庁の庁舎が目にとまります。『相棒』シリーズをはじめとした数ある刑事ドラマでよく目にする庁舎ですね。しかしその立地ゆえに一つ難癖をつけられました。それが、高層庁舎となれば、天皇陛下を見下ろすではないかというものです。そこで、やむなく尖塔の部分は白紙撤回され、中途半端な形の庁舎になりました。



図 8 旧警視庁庁舎

そして内務省は軍部を牽制し得る唯一の官庁であり、「最強」だけあって最初に巨大な庁舎が完成しました。戦後に内務省は、GHQ によって諸悪の根源と看做され、解体の憂き目を見ましたが、戦前の名残で現在も「旧内務省」の内政系省庁が一带には立ち並んでいます。桜田門から望んで、手前が警視庁・警



察庁(旧・警保局)、奥が総務省(旧・地方局)と国交省(旧・土木局)といった具合です。しかし、現在見えるのは無機質な高層庁舎ばかりで、隔世の感があります。なお、思想部門(旧・神社局)は文化庁に、社会部門(旧・社会局/衛生局)は厚生労働省に移管されています。

一方で、労働省や郵政省など、「霞ヶ関」に収まりきれない事業官庁もありました。というと、従前は1省あたり1庁舎を必要としていましたが、戦後になり省庁の数や人員が増加したこともあり、霞ヶ関のキャパシティが足りなくなったのです。労働省は大手町に、郵政省は麻布台に、隔離されることになりました。そこで考え出されたのが、「合同庁舎」という解決策です。中高層の庁舎に複数の省庁を入居させようというアイデアです。象徴的なのが、1978年着工の「合同庁舎5号館」で、初めての超高層庁舎となりました。26階建てで、厚生労働省と環境省が入居しています。かつては防災を担う国土庁も入居していたため、極めて高い耐震性を誇るそうです。ちなみに、環境省がいるせいでやたら空調管理が厳しく、激務を強いられる厚労官僚はストレスをため込んでいるという噂を聞いたことがあります。

このようにして、ほとんどの官庁が「霞ヶ関」に集まりました。巨大な行政機構を受け容れる器が完成したことになります。しかしながら、1980年代以来、時代は「小さな政府」を求めるようになりました。行政改革の荒波の中で、ついに2001年には中央省庁も再編を余儀なくされます。図6の機構図も見ていただくと分かるように、様々な省庁が合併を強いられました。特に総務省は最大の犠牲者と言われており、地方自治の自治省、郵便と情報通信の郵政省、行政改革を担当する総務庁という何の関係もない3省庁が合併しています。当然人事交流も進むはずがなく、いまだに3系統で別々の採用活動を行っている、キメラのような省庁です。他方で、国土交通省も4省庁(運輸省、建設省、北海道開発庁、国土庁)の合併で成立したわけですが、ここはうまく省内融和が進んでいるようです。

ただし、それぞれの省庁のメンツも重要ですから、何が起ころかという、見た目に分かる妥協が進みます。例えば、官僚のトップであるところの事務次官は、総務省では、旧自治省→旧郵政省というようにたすき掛けで人事が行われます。また、大臣室の場所も重要で、国土交通省では、3階の建設大臣室と5階の運輸大臣室の間をとって、4階に国土交通大臣室が置かれました。さらに言えば、合併後の空間配置は肝要です。例えば文科省では、文教系のフロアと科学技術系のフロアが今も分かれていて、使うエレベーターも異なることから、交流が進みにくいという問題が指摘されています。これは他の省庁でも同様の問題があります。

さて、桜田通りを挟んで旧内務省エリアの向かい側には、司法系の施設が立ち並びます。ひと際目を引く法務省赤レンガ庁舎に加えて、東京地裁・高裁、また法務省や検察庁などが入居する中央合同庁舎6号館があります。裁判所は地上19階、地下3階の一大裁判所で、法廷数は150超。毎日1万人が来訪します。道路側に出っ張った部分は、裁判関係者用のエレベーターで、傍聴人と接触せぬよう建築に工夫



が施されています。中央合同庁舎 6 号館は、内部で北側の検察庁と南側の法務省が連結されているのですが、往来ができるフロアは限られています。政治学者・御厨貴によれば、このシャム双生児的な庁舎の在り方が、法務省・検察庁のつかず離れずの関係を象徴しています。

そして、桜田通りを南進すると、やがて外務省、中央合同庁舎 1 号館、経産省、財務省が見えてきます。外務省は、時差のある外国との業務の性質上、夜にも煌々と明かりが灯っています。

その向かいは「中央合同庁舎 1 号館」ですが、今は農水省だけが入居しています。かつて存在した海軍省が解体された際、時勢柄食糧難によって仕事量が急増していた農林省が入居を希望しましたが、行き場を失った海上保安庁も庁舎を必要としたため、初の合同庁舎になったという経緯があります。ちなみに、林野庁のフロアは内装が木目を凝らしたものになっており、美しくなっています。また庁舎内には、結城能野菜をふんだんに使う食堂や、材料の食料自給率を表示している食堂など、こだわりのある様々な食堂があります。私も一度食堂で食べてみましたことがあるのですが、噂通り美味しかったです。

向かいには経産省庁舎です。この役所は産業投資を刺戟するため、他の官庁の所掌分野にも構わず手を突っ込む傾向があります。ヘルスケアでは厚労省、人材育成・「未来の教室」では文科省というように、所かまわず喧嘩をしているので、他の官庁では経産省の悪口がかなりウケたりするらしいです。また、その奥が旧郵政省庁舎です。今は大手町に移転し、代わりにここには環境省が入る予定です。これで厚労省も浮かべられますね。いずれも合同庁舎になります。

外務省の一つ南に立地するのが財務省です。かつての大蔵省は、予算査定の権限と金融政策の決定権を握っていたことから「官庁の中の官庁」と呼ばれ、非常に高い位置にありました。ただし栄華はそうは続きません。1990 年代に「ノーパンしゃぶしゃぶ」事件などで批判が高まり、金融庁を切り離され(財金分離)、マクロ予算編成の権限も首相官邸に奪われました。名前も安っぽい「財務省」に変更されています。それでも国家の大計を練る官庁として高い気品を保っています。この庁舎も老朽化が著しいため、高層庁舎に建て替えが検討されたことがありましたが、東日本大震災以降の財政逼迫を受けて白紙撤回しています。そもそもここは戦前最後に作られた庁舎でした。「官庁の中の官庁」としての責任感から、自らの庁舎の建設を後回しにしていたと言われていました。また、戦争が近づく中でスクラッチタイルを張る余裕がなく、コンクリートむき出しで入居したこともあります。財務省庁舎が古いにもかかわらず茶色でないのには、そうした背景があったのです。また、そのような状況で作られたので、4F と 5F の間には、「耐弾層」として厚い鉄板が敷き詰められました。これらの痕跡は今なお見て取ることができます。ここもかつて、予算編成の時期は徹夜が続くことで知られており、地下の仮眠室を「ホテルオークラ」と呼ぶ洒落があったりします。

さて、桜田通りに並ぶ官庁街の南端に位置するのが中央合同庁舎 7 号館で、主に文科省が入居してい



ます。文科省の売りはこの新しい庁舎です。PFI を導入していることもあり、他の省庁に比べても極めて内装が美しく、冷房もしっかり効いています。これもつまらないことですが、文科省は政治的な「応援団」がおらず、常に予算編成では不利な状況にありました。ここ 30 年近くの間で、全体の予算が倍近くになったのに対し、文教予算はほとんど増えていません。苦汁をなめてきたことから、財務省に対する反骨心が強く、高層庁舎では財務省を見下ろせる位置に喫煙室が設けられている、とある行政学者が言っていました。

なお、文部科学省と財務省との間には「三年坂」、財務省と外務省の間には「潮見坂」があります。田舎の神社ヨロシク、重要な施設は必ず高い場所に作られます。そのため、坂の上にあるのは国会です。ここは、かつての日比谷入江と四谷・麴町台地の境界をなしています。転げ落ちれば三年で死ぬということで三年坂、昇ればかつて海が見えたということで潮見坂と名づけられています。国会ほか官邸が所在する永田町の話は、次節で紹介することになります。

以上、官庁集中計画で集中された霞ヶ関の諸官庁を紹介してきましたが、霞ヶ関にない官庁も少ないながらも存在します。

まずは防衛省です。防衛省の庁舎は、霞ヶ関から4kmほど北の市ヶ谷に所在しています。そこには、防衛省本省(内部部局)のみならず陸上・海上・航空の 3 幕僚監部、そしてこれらを更に統べる統合幕僚監部があり、まさしく日本の国防の中枢です。庁舎 A 棟地下には自衛隊の指揮命令中枢である中央指揮所が設置され、また庁舎 B 棟から伸びる防衛省市ヶ谷無線鉄塔(通信鉄塔)は、建物部分を含め 220 メートルの高さがあります。

当地は、江戸城・皇居西方の高台である市ヶ谷台の南側にあたり、江戸・東京の防衛の要として江戸から現在まで重要な防衛施設が置かれてきた歴史を持ちます。具体的には、江戸時代には御三家である尾張徳川藩上屋敷があり、明治維新後に薩摩藩兵の屯所として利用されました。その後も国防関係施設が建てられ、特に 1874 年から 1937 年までは陸軍士官学校、同じく 1941 年までは陸軍予科士官学校が置かれ、多くの陸軍将校・士官候補生を養成してきました。

防衛庁本庁は、1960 年に霞ヶ関から移転して以来、約 40 年間、檜町地区に所在しました。しかし、昭和 50 年代から 60 年代にかけて周辺の商業地化が著しく進展し、これに伴う交通渋滞の慢性化、あるいは周囲の商業ビルの高層化による警備面での諸問題が生じるようになります。また、施設の大半が昭和 20 年代に建設されたもので手狭になってきたこともあり、長期的にみた場合、檜町地区は防衛中枢の所在地としては適当なものではなくなっていると判断されます。そのため防衛庁本庁などを、檜町地区の約 3 倍の敷地を有する市ヶ谷地区に移転することとし、あわせて関連する東京都内及び周辺の防衛施設(目黒、朝霞、大宮、霞ヶ浦及び十条の 5 地区)を機能別に集約・再配置を図りました。なお防衛庁旧



檜町地区の土地は、その後東京ミッドタウンとして再開発がなされています。

また新進気鋭の官庁、デジタル庁も霞ヶ関にありません。デジタル庁は、東京ガーデンテラス紀尾井町というビルの19,20階に入居しており、そこで約500人の職員が働いています。デジタル庁は菅政権によって2021年に発足された行政機関で、行政デジタル改革の司令塔としての役割を担いますが、強い権限の下で省庁横断のデジタル行政改革を推し進めるために内閣に設置され首相が長を務めていることが特徴で、「他の府省庁よりも1段高い位置にある行政機関」と例えられることもあります。内閣に設置され首相が長を務める庁は他には復興庁しかなく、デジタル庁と合わせて例外的な存在といえるでしょう。

デジタル庁の庁舎はここ数年の短い間で2回も転居を繰り返した。デジタル庁発足前の母体は内閣官房IT総合戦略室なる組織で、最初は内閣府別館に入っていましたが、2008年に霞ヶ関の民間ビルに転居。その後IT室の規模拡大に伴い、オフィスが手狭になってきたことを受けて2020年8月に虎ノ門のオフィスに引っ越し。虎ノ門オフィスでは300人で業務にあたっていたが、デジタル庁新設で500人体制に膨れ上がることを鑑み、再度の移転計画が持ち上がったのです。紀尾井町に移ったことで、床面積が広くなり、大臣室や副大臣室を設けることができるようになりましたが、家賃は引っ越しのたびに上昇しています。

ハ. 永田町を巡る

巡検では、霞ヶ関を歩いた後は、虎ノ門を経由しつつ永田町を目指しました。永田町は、首相官邸や国会議事堂、また各政党の本部などが所在する、日本の政治の中心でございます。

まずご紹介するのは内閣府庁舎です。かつての首相の持つ力は非常に弱く、大臣、ひいては各省官僚が実際の政策を決めているとされてきました。そこで、1990年代の諸改革を経て、官邸機能を強化し、首相のリーダーシップを確保しようという動きが出てきます。その一環として、総理府を内閣府に改組し、首相の知恵袋として、各省間の総合調整を担う機構としました。また、内閣官房の機能も強化し、「官邸主導」で様々な政策に介入できるようにしています。現在、内閣官房には千人単位の職員が派遣されているそうです。

結果的に、首相官邸にはこれまで以上に様々な情報が集まるようになりました。ガラス張りの近代的な建物で、堅いガードのもと、業務に当たっているわけです。実際、巡検当日、首相官邸前でこれらの解説をしていたところ、警備にあたる警察官に職務質問をされてしまいました。（「大学のゼミです」と無難に答えて切り抜けました）。しかし昔は違いました。横にある茶色い「首相公邸」がかつての官邸であったのです。そこは、非常に小さく、メディアの記者含め誰もが簡単に出入りできる環境にあったそうです。この変

化が政治構造の変化を表していますね。なお現在は、公邸は首相の住居として活用されるのですが、2.26 事件の現場であったことから幽霊が出ると噂されており、安倍首相など、入居を嫌がる首相もいました。

巡検では、内閣府庁舎、首相官邸に加え、官邸そばの雑居ビルにも注目を向けました。そのビルには、「関係者以外駐輪禁止」と書いてあるのに、自転車が並んでいます。これはなぜでしょうか。実はこの建物は内閣府庁舎の別館で、緊急事態対応を担っています。ミサイル発射や大災害などが起こった際に、緊急参集する職員は特別にこの周辺に住居を与えられており、自転車で通勤しているのです。昨今、官邸のもつ重要な機能として危機管理が取りざたされていますが、それを象徴する光景でした。



図 9 首相官邸



図 10 自転車

さて、官邸関連の諸施設の次は、国会議事堂について解説しましょう。国会議事堂は、17 年間の工事を経て、1936 年に完成しました。ところで、国会周辺の地図を見ると地下鉄丸ノ内線が国会の敷地の真下を通過していることが分かります。一見不思議なことですが、実は 1960 年代まで国会の区画が異なっていたという背景があります。下の図は、1960 年と 2014 年の航空写真を比べた画像ですが、1960 年当時は道路が V 字型に国会の周りを取り囲んでいますね。当時の報道写真を見比べればわかることですが、1960 年の安保闘争デモの際は、群衆が国会前を V 字状に囲んでいます。2014 年の方だと T 字状に並ぶ形になっています。どちらの方がより圧迫感があるでしょうか。おそらく前者の方が、圧迫感があると感じられるでしょう。1960 年の安保闘争について、当時の岸信介首相は「死にかけた」と回顧しています。デモ隊に国会と官邸を包囲され、戦前の防空壕跡を使って移動せざるを得なかったという都市伝説もありますが、危険が現実化していたことは間違いありません。岸首相も安倍首相も同じ清和会の政治家です。55 年の時を経て、政治環境とともに、官邸や国会を取り巻く地理環境も大きく変わっていった、というのは興味深いですね。



図 9 国会周辺の区画の今昔(今昔マップより)

ここまでは、重要な組織の警備が厳しくなってきた、という話が続きました。一方、同じく永田町に立地する自民党本部は、今なお人の出入りが盛んな建物になっています。陳情なども含め、1日延べ2000名が入り出りするそうです。有権者との距離を縮めるのが政党の存在意義ですので、ワイワイガヤガヤしている、というのはある意味正しいことなのでしょう。近傍の立憲民主党本部も雑居ビルにあり、猥雑な雰囲気を保っています。

では、司法府の最高機関はどうでしょうか。最高裁判所の現庁舎は1974年、隼町の地に竣工しました。民衆運動などを通じ社会秩序が揺籃した時代背景のもと、憲法問題が争点化したこともあって、最高裁の権威も揺らいでいました。このような状況で作られた庁舎が前衛的な建築様式をとったのは趣深いことです。

二. 派閥のはなし

派閥とは、戦後の自民党に割拠していたもので、大きく分けて5系統の派閥が存在します。それぞれ異なる政策を主張していました。自民党支配が続いた55年体制下では、党内の派閥間での「疑似政権交代」を繰り返し、バランスを保ってきました。右の図は、自民党の派閥の系譜を表したものです。

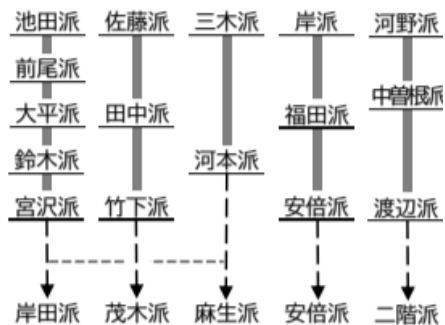


図 10 自民党の派閥の系譜



では、派閥形成の歴史を振り返りましょう。時代は戦後直後にまで遡ります。

戦後政権の座についた吉田茂は、有力政治家が軒並み公職追放の憂き目を見たことなどから、官僚を政界に引き入れ、大臣職などに抜擢することで、自らを師事する勢力を形成しました。これを「吉田学校」といい、旧自由党の本流を形成します。五大派閥でいうところの池田派と佐藤派がこれに当たります。池田派(宏池会)は、その後も優秀な元官僚が多く、政策に強いことで知られましたが、一方で政争には不得手で、「公家集団」などと揶揄されています。吉田は占領期の名宰相で、復興のために経済を最優先し、軍備拡張は後回しにしつつ、アメリカと友好関係を築く、という戦後の基本的な外交姿勢を形成しました。この「対米協調」の外交姿勢は、かつて当会本部がアメリカ大使館目の前の日本自転車会館に入居していたことにも現れています。

一方、旧民主党には「党人派」が集いました。徒手空拳で成り上がった政治家で、三木派や河野派を形成しました。また、佐藤派でも党人系の田中角栄が勢力を伸ばして派閥の指導権を奪取。その後の田中派・竹下派(経世会)は、権力闘争に強く、「キングメーカー」と呼ばれるなどし、絶大な影響力を誇りました。「公家集団」の宏池会が権力闘争で敗退を重ねたのはある種必然の理だったと言えます。

旧自由党＝「吉田学校」(官人派)、旧民主党＝党人派、という図式からすると若干異色なのが、岸派・福田派(清和会)です。岸と福田は官僚出身ですが、「吉田学校」の路線とは一線を画し、反主流派を形成しました。これにより、「疑似政権交代」が可能となります。タカ派の岸信介が日米安保更新を強行したのに対し、その後の池田政権は「チェンジ・オブ・ペース」として改憲論議を封印。経済政策に傾注する姿勢を示して支持を調達しました。また、1970年代にも、田中内閣が積極的な公共投資を主導してインフレを招いたのに対し、その次の次を狙った福田赳夫は、この状況を「昭和元禄」・「狂乱物価」と批判。安定成長策を講じたほか、吉田以来の外交政策を転換する「福田ドクトリン」を唱えました。

こうした派閥は地方の陳情を捌き、集票組織としても機能する自民党の派閥は、利権と深い関係を持っています。それは、その本部の場所にも関係しています。

例えば、旧竹下派や岸田派は、永田町の全国町村会館に本拠を構えています。その裏には、地方から陳情のため上京する有権者との距離を縮めようとする戦略も垣間見えます。

また平河町の砂防会館には、田中派や中曽根派など、政治闘争を得意とした派閥の事務所が置かれていました。地方利益を代表するのは道路の建設や砂防事業などです。昭和の政治を「土建国家」と呼ぶのはその名残ですね。ちなみに、目白台の田中角栄邸から新潟の彼の実家までは、3回曲がるだけで到達できます。後継の竹下家も、雲南市掛合というところがありますが、そこを経由するように松江道を歪めたことで知られます。利益誘導華やかかなりし頃の政治を彩ったのが、この砂防会館でした。

このように、永田町周辺の利便性の高い場所に集積する派閥は、一方で地方や利権団体とのつながり

も重視しているのです。

自民党の派閥はこのように、単に政策集団として機能を果たすだけでなく、権力闘争の母体としても存在感を発揮していました。当時の中選挙区制では、同じ地域で自民党同士の潰し合いが起こります。ここで、政治資金の援助や応援弁士の派遣など、派閥に所属していることで、多大なる恩恵に与ることができたのです。

しかしながら、その後の政治腐敗に対する批判のなかで、派閥こそが諸悪の根源であるという批判も免れ得ませんでした。政治改革を経て派閥の影響力は弱まっています。また、多くの離党者が出る中で派閥組織も動揺し、再編が繰り返されました。

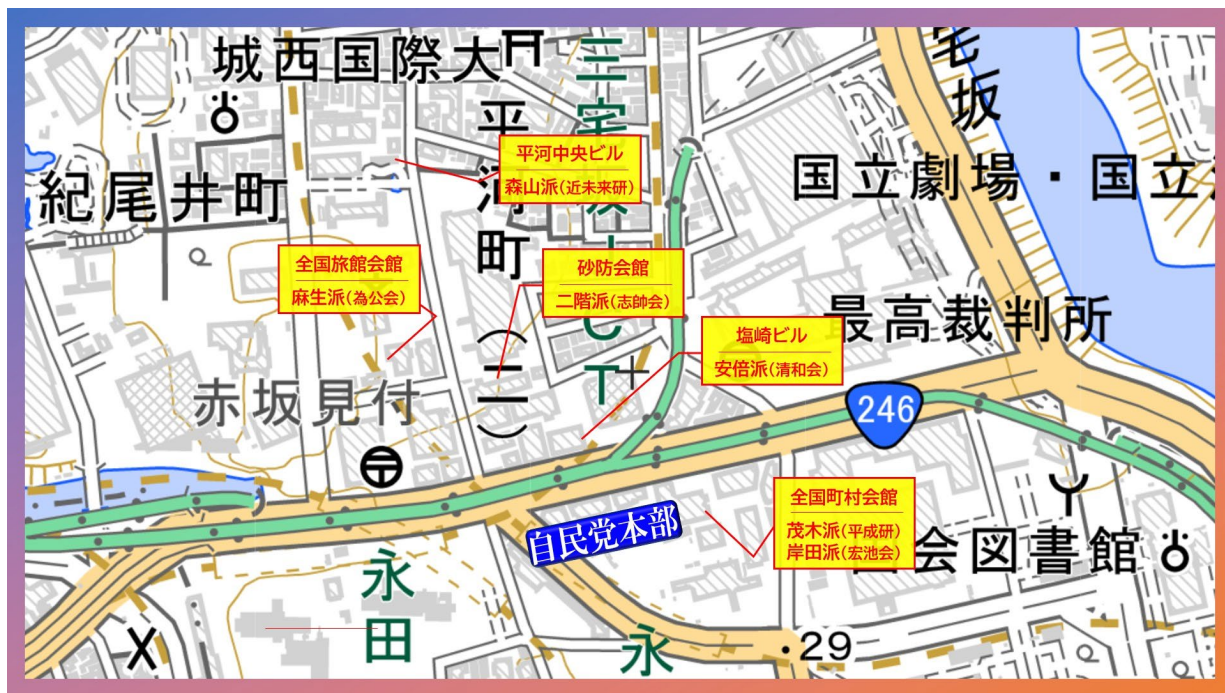


図 11 自民党派閥本部の立地(地理院地図を加工して作成)

ホ.ホテル御三家を巡る

今回の霞ヶ関巡検 2023 では、東京の「ホテル御三家」を巡ることを一目的に置きました。「ホテル御三家」は、日比谷の帝国ホテル東京、虎ノ門の The Okura Tokyo、紀尾井町のホテルニューオータニ東京を指します。この3ホテルが「御三家」と呼ばれている所以は、最高位の評価を受け続けているほか、客室数や宴会場の規模、レストランの充実度などで抜きん出ていることが挙げられます。



図 14 帝国ホテル

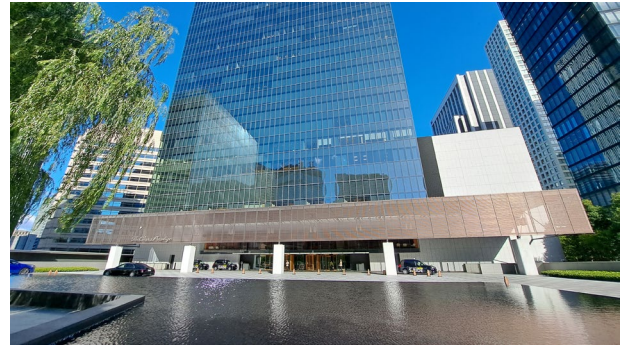


図 15 ホテルオークラ



図 12 ホテルニューオオタニ東京

帝国ホテルは、海外からの賓客を迎える迎賓館として、1890 年に開業しました。御三家最古のホテルです。日本の近代ホテルの先駆け、かつ代表格として圧倒的な信頼感を誇っています。後述しますが、この開業年はオークラとニューオオタニとは 70 年ほどの開きがあります。

この帝国ホテル設立を提唱したのは外務卿であった井上馨で、当時不平等条約改正を目指して鹿鳴館外交を行っていました。そして彼は外国貴賓のための本格的なホテル建設を提唱し、これに実業家の渋沢栄一、大倉喜八郎らが応じ、財界と国からの出資を得て、開業を迎えた形です。

そして御三家を結ぶ一つのキーワードが五輪と万博です。1964 年の東京五輪開催は、御三家それぞれにとってエポックメイキング的な意味合いを持ちました。五輪期間中、帝国ホテルは各種委員会に会場を提供したほか、選手村への給食業務を手掛ける日本ホテル協会の拠点としての役割を果たしました。同時期は都内に続々と大型ホテルがオープンする第一次ホテルブームが起こっていたのですが、それらとの競争に対処するため、大阪万博の開催が決まると、当時廊下が深刻であった本館であるライト館の取り壊しと新本館の建設を決定しました。開催時期が2週間程度の五輪に比べ、万博は6ヶ月と長期であるため、ホテル業界への恩恵も大きかったことでしょう。さらに、来たるべきジャンボジェットによる大量輸送



時代に備え、新本館は客室数 1000、26 階建てというかつてない規模で構想されました。

ホテルオークラは大倉財閥の二代目である大倉喜七郎の子によって、1962 年に開業しました。大倉はホテル建設の際、当時の日本のホテルは欧米の模倣が多く日本の特色を出していないという事情から、日本的カラーを前面に打ち出しました。喜七郎はホテルの建設用地として大倉邸宅跡を選んだが、それは当地周辺の起伏が激しく、江戸や品川を見下ろせる坂に囲まれた傾斜地であったことが関係しています。元々この地一帯は東京都から緑地指定を受けており、建設許可を得ることに困難があったが、当時の高度経済成長のために国際化への対応が叫ばれ、東京五輪を控えて外国人用の宿泊施設を拡充することが国策となっていたことに恩恵をもらい、ホテル建設の許可が下りたのです。ただし建築許可条件のなかには「正面玄関から高さ 20m 以内の建物」にしなければならないというものがあり、大規模建築の障害となっていました。そこでホテルオークラは、丘陵上の最も高い位置、すなわち霊南坂上を正面玄関として、そこから 20m、6階建てにすることとしました。つまり最も低い汐見坂下、江戸見坂下には地下部分として4階分確保できる恰好であり、このため正面玄関から見ると6階建て、裏から見ると 10 階建てという外観となり、5階にメインロビーがあるという特異な造りとなりました。

ホテルニューオータニ東京は 1964 年にオープンしましたが、これもやはり、同年の東京オリンピックに向けて増加する外国人観光客を見越して建設されたものでありました。1964 年東京オリンピックを2年後に控えた 1962 年、オリンピック委員会と政府は外国人来訪を約 3 万人と予想して受入れ施設の確保を計画し財界に打診すると、大谷重工業社長の 大谷米太郎が受諾してホテル建設に着手します。しかし2年後の東京五輪に絶対に間に合わせなければならなかったため、普通であれば3年はかかるのが常識的な工事を、たったの 17 か月という突貫工事で実現しました。工期短縮の一つの切り札となったのが「ユニットバス」のアイデアでありました。バスタブ、洗面台、便器を組み合わせた「ユニット」を工場ですべて製造しホテルの部屋にはめ込むだけという工法で、実はこれは世界初の試みであったのです。

ところで、以上の3ホテルを「御三家」に押し上げるきっかけとなったのが、1970 年代からの迎賓館の運営です。

迎賓館は、明治期に建設され、大正、昭和、平成と戦争や震災など幾度の危機を乗り越えながら燦然と建つ日本最初の洋風宮殿です。東宮御所として建設されながらも、その役割を果たしたのはごく僅かな一時期だけという数奇な運命を辿っています。ここで、せっかくなので、迎賓館の歴史についてもご紹介しましょう。

もともと当時の皇太子がお住まいになる「東宮御所」として建設されたこの宮殿。10 余年の歳月をかけて、1909 年に完成しました。時は文明開化が進み、西洋の文化を積極的に取り入れていた時代。欧州の宮殿に学び、日本の建築技術、美術工芸の総力を挙げて創り上げられた明治時代を象徴する一大モニュ



メントでした。建設には天文学的な費用がつき込まれました。東京の小学校教員の初任給が13円という時代に、総工費は約510万円余り。現在の貨幣価値に換算すると941億円を超えるという計算もあります。しかし極度に大層なこの宮殿は、「豪華すぎる」という理由や住居としては使い勝手が良くないという理由から、明治天皇の意向に沿わず、当時の皇太子ご夫婦が過ごすことは叶いませんでした。その後は離宮として扱われることとなり、その名称も赤坂離宮と改められました。第二次世界大戦後、赤坂御用地の敷地や建物は皇室から国に移管され、国立国会図書館(1948-1961)、法務庁法制意見長官(1948-1960年)、裁判官弾劾裁判所(1948-1970年)、内閣憲法調査会(1956-1960年)、東京オリンピック組織委員会(1961-65年)などに使用されました。その後、戦後十数年を経ると国際関係が緊密化したことから、外国の来賓を迎えるための迎賓館が必要とされます。そこに白羽の矢がたったのが赤坂離宮でした。公式行事が行えるような近代的機能を整備すると同時に、文化財的価値の保存にも配慮され、約6年の歳月をかけて迎賓館として生まれ変わった宮殿は、アメリカのフォード大統領を初めて国賓として迎えたのを皮切りに、先進国首脳会議などの歴史を見守る華やかな会場となったのです。

そして、そのオープン時に迎賓館の運営を受託されたのが、ホテルオークラでした。翌年から帝国ホテル、ニューオータニの3者で持ち回りとなりました。海外の賓客をもてなすために外交儀礼を守りつつ、最高水準のサービスを提供することで磨かれたノウハウがホテル運営にもフィードバックされているといえます。また御三家は大規模な宴会場設備を有している事情からサミットや皇室行事の際に各国首脳らが利用するホテルの代表格でもあり、期間中は貸切となったり一般客の利用が制限されたりします。収益上はマイナスになるとのことでありますが、記者会見で全世界にホテルが無料でPRされ、海外要人が利用したホテルという箔がホテルのイメージ向上に貢献しているらしいです。

参考文献

- 宮田章, 2002, 『霞ヶ関歴史散歩』中公新書
- 監修・建設大臣官房官庁営繕部, 1995, 『霞ヶ関一〇〇年』(社)公共建築協会
- 藤森照信, 1990, 『明治の東京計画』同時代ライブラリー
- 御厨貴, 2013, 『権力の館を歩く』ちくま文庫
- 御厨貴, 2016, 『権力の館を考える』放送大学教材
- 手塚洋輔, 2015, 「官衙街『霞が関』の計画と官衙建設の展開」『建築と権力のダイナミズム』岩波書店 pp.65~89
- 陣内秀信, 1992, 『東京の空間人類学』ちくま学芸文庫
- 谷口榮, 2021, 『都市計画家 徳川家康』MdN 新書



- 鈴木理生,2006,『江戸・東京の地理と地名』日本実業出版社
- 竹内正浩,2015,『地図と愉しむ東京歴史散歩 お屋敷のすべて編』中公新書
- 吉見俊哉,2021,『東京復興ならず』中公新書
- 松橋達矢,2017,『「丸の内」をめぐる『景観』論争の系譜』『関東都市学会年報第18号』
- 前島康彦,1994,『日比谷公園』東京公園文庫
- 編・大蔵省百年史編集室,1969,『大蔵省百年史』大蔵財務協会
- 木村秀美,2020,「大蔵省～財務省の庁舎こぼれ話あれこれ」『ファイナンス』5月号
- 編・外務省百年史編纂委員会,1969,『外務省の百年』原書房
- 編・会計検査院,1980,『会計検査院百年史』大蔵省印刷局
- 山川清弘,2020,『ホテル御三家 帝国ホテル、オークラ、ニューオオタニ』幻冬社
- 青木栄一,2021,『文部科学省 揺らぐ日本の教育と学術』中公新書

※編注:本記事の情報は、2023年8月の執筆当時のものです。あらかじめご了承ください。



リアルGeoGuessr2023 実施報告

72期地図長・副新歓長

企画者

72期部長、72期庶務、72期総務（2名）、72期企画室長・副地図長、
72期地図長・副新歓長

企画概要

毎年恒例となっているリアルGeoGuessrを72期有志が企画者となり実施した。基本的なルールは前回と同様で、東京の風景を写した22枚の写真がどこで撮られたものか推測し、実際にその場所に行って写真を撮る、というものである。

実施日時

A日程：10/29（日）12：30～18：30

B日程：11/3（金・祝）12：30～18：30

参加者

A日程：70期 3名

71期 3名

72期 6名

73期 10名

B日程：70期 2名

71期 1名

72期 5名

73期 14名



ゲーム概要

- ・プレイ時間は5時間30分。
- ・参加者を4～6名のチームに分け、チームごとに行動をとってもらう。
- ・ポイント制（後述）で行い、ゲーム終了までに獲得したポイントの最も高かったチームが優勝となる。
- ・参加者全員に、東京のある場所を撮影した写真が22枚配られる。
- ・参加者はその写真群を見て、それぞれがどこで撮られたものであるのか推測する。そして、推測した場所に行き、同じ構図で写真を撮影する。この際、写真の中にチーム構成員が写っていないなければならない。

ポイントの獲得方法

- ・22枚の写真は α 群16枚と β 群6枚から構成されている。 α 群は $\alpha - 1 \sim \alpha - 16$ 、 β 群は $\beta - 1 \sim \beta - 6$ とナンバリングがなされている。
- ・全ての写真は東京メトロまたは都営地下鉄の沿線で撮影されたものであり、各参加者は都営地下鉄・東京メトロ共通一日乗車券を使って行動してもらう。写真の撮影場所は、それぞれ最も近い地下鉄駅の出口から数分～10分程の位置にある。

ポイントの計算方法

（以下、ポイントの計算方法はA日程とB日程で異なる。変更点は下線で示す。変更の経緯に関しては「反省」の章で述べる）

〈A日程〉

「問題での得点」

- ・ α 群の問題はビンゴの成立で得点できる。
1列ビンゴするごとに**100 p t**獲得。
同時に3列ビンゴするとボーナスとして**100 p t**加算→一度に**400 p t**獲得。
- ・ β 群の問題は単独で正解するだけで得点できる。
1問正解するごとに**70 p t**獲得。



「ボーナスルール」

・各問題スポットで3番目に到達したチームは**40 p t**獲得。

・地下鉄同士で接続のない終着駅に到達すると**40 p t**獲得。

対象駅：荻窪・方南町・北綾瀬・代々木上原・中目黒・西船橋・中野・赤羽岩淵・新木場・和光市・西馬込・本八幡・西高島平・光が丘。地下鉄の駅名標を撮影し送信。

「再集合時の加算得点」

・着順1位のチームは**50 p t**、2位のチームは**30 p t**獲得。

・1・2位のチームは、再集合時刻18:15から数えて1分早着につき**5 p t**獲得。

・再集合時刻18:15に遅れたチームは1分延着ごとに**20 p t**減点。

・ただし、18:00以前の到着は無効。

・18:25以降に到着したチームは失格。

〈B日程〉

「問題での得点」

・ α 問題も1問正解するごとに20 p t獲得。

1列ビンゴするごとに**100 p t**獲得

同時に2列ビンゴするとボーナスとして**100 p t**加算→一度に**320 p t**獲得

同時に3列ビンゴするとボーナスとして**200 p t**加算→一度に**520 p t**獲得

・ β 群の問題は単独で正解するだけで得点できる。

1問正解するごとに**70 p t**獲得。

「ボーナスルール」

・各問題スポットで3番目に到達したチームは**40 p t**獲得。

・地下鉄同士で接続のない終着駅に到達すると**20 p t** (A日程は**40 p t**) 獲得。

対象駅：荻窪・方南町・北綾瀬・代々木上原・中目黒・西船橋・中野・赤羽岩淵・新木場・和光市・西馬込・本八幡・西高島平・光が丘。地下鉄の駅名標を撮影し送信。



「再集合時の加算得点」

- ・ 着順ボーナスの削除
- ・ 1・2位のチームは、再集合時刻 18 : 15 から数えて1分早着につき 5 p t 獲得。
- ・ 再集合時刻 18 : 15 に遅れたチームは1分延着ごとに 20 p t 減点。
- ・ ただし、18 : 00 以前の到着は無効。
- ・ 18 : 25 以降に到着したチームは失格。

A日程詳細

問題 <https://x.gd/9Eyne>解答 <https://x.gd/v48EY>

最終結果

順位	班	得点
1位	3班	785点
2位	4班	700点
3位	5班	500点
4位	1班	430点
4位	2班	430点



タイムライン

	1班	2班	3班	4班	5班
12:45~13:00					
13:00~13:15			13:11 α-8		
13:15~13:30	13:27 α-1	13:25 α-8			13:28 代々木上原
13:30~13:45			13:35 α-9	13:34 α-8③	13:33 α-6
13:45~14:00	13:45 赤羽岩淵		13:54 α-12		13:52 α-12
14:00~14:15		14:11北綾瀬	14:10 α-16	14:13 α-2	14:11 β-3
14:15~14:30			14:16 中目黒		14:25 α-14
14:30~14:45	14:32 β-2	14:31 α-15		14:33 α-4	14:33 方南町
14:45~15:00	14:56 β-5		14:48 方南町		
15:00~15:15		15:12 α-4	15:04 β-3	15:09 β-4	15:00 荻窪 15:08 中野
15:15~15:30			15:22 α-11 1B		15:26 α-10
15:30~15:45	15:43 β-6	15:36 α-2	15:35 β-1	15:43 α-7	15:39 β-5
15:45~16:00	15:48 新木場			15:58 新木場	
16:00~16:15	16:01 α-7	16:00 α-9	16:05 α-4③	16:02 β-6	16:02 β-2
16:15~16:30		16:23 β-5③			
16:30~16:45	16:37 α-6		16:31 本八幡 16:35 α-3 1B	16:42 α-13	16:31 中目黒 16:42 α-16
16:45~17:00	16:58 α-11	16:51 α-10	16:53 西船橋		
17:00~17:15				17:02 α-16③ 1B 17:12 中目黒	17:08 α-5 1B
17:15~17:30		17:19 α-12③ 1B	17:19 β-6③ 17:27 新木場		
17:30~17:45		17:40 α-6③ 1B		17:32 α-12 1B	17:32 β-1
17:45~18:00	17:58 α-9③ 1B				
18:00~18:15					
到着時間 ボーナス	18:13	18:14	18:02②	18:09	18:01①
正解数/ 終着駅到達数	α×5 β×3 /3	α×8 β×1 /1	α×7 β×3 /5	α×7 β×2 /2	α×6 β×4 /5

*記入規則

時刻+正解問題番号もしくは終着駅+③（3番目に到着した場合）+（ビンゴ数）B



B日程詳細

問題 <https://x.gd/oCkVr>



解答 <https://x.gd/GbeD3>



最終結果

順位	班	得点
1位	1班	1010点
2位	3班	795点
3位	5班	690点
4位	2班	615点
5位	4班	535点

写真：B日程 問題 α - 7





タイムライン

	1班	2班	3班	4班	5班
12:45~13:00					
13:00~13:15			13:12 α -12	13:13 β -6	
13:15~13:30	13:18 α -12	13:27 α -2			13:27 α -1
13:30~13:45				13:36 α -2	
13:45~14:00	13:47 α -2③	13:50 α -16	13:45 α -4		
14:00~14:15	14:12 α 4			14:13 β -5	14:05 α -6
14:15~14:30		14:21 α 13	14:18 α -1		
14:30~14:45	14:37 α -1③	14:42 α -12			14:41 β -5
14:45~15:00		14:52 β -5③	14:55 β -5		14:53 α -10
15:00~15:15	15:00 α -3	15:13 α -3		15:03 β -2	
15:15~15:30	15:21 β -5		15:29 α -13③		15:15 α -13
15:30~15:45	15:33 α -10③	15:36 α -6	15:43 α -10		
15:45~16:00	15:49 α -13 1B			15:45 β -1	15:50 α -9
16:00~16:15		16:09 α -1	16:11 α -16		16:11 α -7 1B
16:15~16:30	16:17 α -9		16:26 α -3③ 1B	16:21 β -4	
16:30~16:45	16:39 α -7 1B	16:33 α -4③			16:32 α -15
16:45~17:00		16:52 α -12③ 1B	16:56 α -11	16:54 β -3	16:58 β -1
17:00~17:15	17:03 α -15		17:12 α -8 1B		17:03中目黒
17:15~17:30		17:23 β -4		17:17 α -6	
17:30~17:45	17:33 α -5 2B★		17:33 β -6		17:37 β -6③
17:45~18:00	17:51 β -6		17:51 α -2 1B		17:52 α -4 1B
18:00~18:15					18:06 α -12 1B
到着時間 ボーナス	18:09	18:00	18:00	18:00	18:18
正解数(あれば終着駅)	$\alpha \times 11$ $\beta \times 2$	$\alpha \times 9$ $\beta \times 2$	$\alpha \times 10$ $\beta \times 2$	$\alpha \times 2$ $\beta \times 6$	$\alpha \times 9$ $\beta \times 3$ +中目黒
ビンゴ数	4	1	3	0	3
3班目 ボーナス	4回	3回	2回	0回	1回

*記入規則

時刻+正解問題番号もしくは終着駅+③(3番目に到着した場合)+ (ビンゴ数) B+★(ダブルビンゴとなった場合)



反省

得点配分に関して

・A日程では3番目到着ボーナスがあまりにも大きく、ほとんど運で決まるといってよい到着順が、ゲーム全体の流れを大きく左右し、ゲームの本質を歪める結果となってしまった。B日程ではこれを踏まえ、ボーナスポイントを40ptから20ptへ調整した。

・A日程では α 問題はビンゴをして初めて得点できる問題群となっており、ビンゴに至らず、結果として α 問題正解が得点に結びつかない場合が多発した。B日程ではこれを踏まえ、 α 問題単体を正解するだけで20pt獲得できるよう改良した。

難易度に関して

・全ての問題が、いずれかの参加者により解かれていた。ただ、1つの班で全ての問題を解いてしまうというケースはB日程の1班のみであり、難易度としては適切であったと思われる。

写真：A日程 問題 α - 15





LONGRUN 2024 新歓号

第73巻 1号

発行人 横田有映

2024年4月1日発行

編集 稲葉佑太 牛島啓

発行所 東京大学地文研究会地理部

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学教養学部学生会館 309

TEL. 03-5454-4343

<http://www.chiribu.org/>

※本誌の無断複製は、著作権法上の例外を除き禁じられています。

LONGRUN

